

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアーサービス株式会社		
事業所名	グループホーム かなれ 1階		
所在地	名古屋市名東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	平成30年12月4日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2391500085-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2391500085-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成31年1月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様の以前からの元々の性格をくみ取り、その人らしく心穏やかに生活できるように、またできることはゆっくりご本人様のペースで参加して頂き、自立支援を心がけながら、できないことは支援させて頂いております。笑顔で生活できるように支援させて頂いております。室内を清潔に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

2ユニットのモダンな外観の事業所は、開設から16年を経て地域の住宅の中にすっぽりと溶け込んでいる。「その人らしさを大切に」という理念の基に、「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし・笑顔絶えない暮らし」を重点目標に掲げ、個々に寄り添って温もりのある暮らしを目指して日々のケアに努めている。運営推進会議の中で、毎回テーマを決めて勉強会をしながら地域の方とも共有を深めている。地域行事の参加や事業所主催の催し物などはなかなか難しい状況となってきたが、家事活動や買い物、散歩、趣味の生け花など入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。95歳を迎えた方も、職員や周りの入居者に支えられながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。日当たりの良い居間からガラス越しに見える景色や空模様などに目をやりながら、語らったり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を仲間と楽しんでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念を下に利用者一人一人がその人らしく生活できるよう家庭的に和やかな暮らしを目指している。その人らしくという理念に基づいて、笑顔ある穏やかな毎日が過ごせるよう努力している。	法人理念の「その人らしさを大切に」を基にして「その人らしく」と「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし・笑顔絶えない暮らし」を重点目標にして各フロアに掲示している。職員は、入居者の今まで歩んできた人生を尊重し、身体状況や心の状態に合わせ、個々に寄り添って温もりのある暮らしを目指し実践に向けて努力している。理念は連絡帳に貼り業務に入る前に確認したり、会議や研修等で再確認し、行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に添ったルールを守り、地域の一員としてあいさつを交えながら散歩をし、つながりを持っている。ゴミだしなどのルールを守っている。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。資源回収に協力したり地域の役割を引き受けたりして地域の一員としてのつながりを大切にしている。地域の商店や飲食店などの利用、散歩時や近隣の方との挨拶、地域サロンの参加など地域とのつながりを大事にしているが、参加できる入居者が少なくなってきた。中学生の職場体験を受け入れたり、大正琴や踊りなどの地域ボランティアを受け入れたりして積極的に交流するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に入っている。認知症の人の理解は運営推進会議で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者がその都度議題を作り様々な取組をしている。	入居者家族、自治会長、民生委員、連携病院の相談員、薬剤師、いきいき支援センターの職員の参加を得て年6回実施し、運営状況や活動内容などを報告している。また、尿路感染、ヒートショックやかくれ脱水、口腔ケア、薬剤師からお薬についての基礎講座などテーマを決めて毎回勉強会を実施している。参加者からの意見や提案等はその場で話し合ったり、記録して会議などで協議しサービスや技術の向上に活かしている。	入居者家族や地域に運営推進会議を通して情報を得る機会があることを知って頂くために、年間計画や案内などで予定を知らせたり、個人情報に考慮して会議録を添付したりするなど工夫をして、より多くの参加者が得られるよう積極的に発信していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き情報をお知らせしている	行政担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行業務、市の助成金などの手続き等で訪問した折に、情報交換をしたり入所事例などで指導や助言を得るなど良好な協力関係を築いている。市主催の事業者講習会や研修には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して、職員一同してはならないと思っている。施錠に関しては、利用者様に危険が生ずる場所には、行っているが、出ていかなないようにと安易な考えで施錠をしているわけではない。	身体拘束等のマニュアルを各ユニットごとに置いて意識を高め、身体のみならず、言葉や心の拘束にも配慮して、束縛感のない環境づくりに努めている。機会あるごとに拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図るようにしている。交通事情により安全のために玄関の施錠とセンサーマットの使用はあるが、家族からの同意を得ている。入居者一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」という言葉の重みを持ち、注意を払いながら業務に取り組んでいる。なかなか学ぶ機会はないが、絶対にしてはいけない事という認識で業務している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフと管理者で話しあい、モニタリングを行い、出来る範囲内で活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接意見が出にくい方がいる可能性も考え、「ご意見箱」を窓口に置いている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時やケアプランの更新時にアンケートを行い、生活や趣味、医療・健康面や介護の方針などの要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。また、管理者から手書きの便りを毎月発行し、入居者一人ひとりの日ごろの様子や外食、行事の写真を同封して家族に安心を届けている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どんな些細なことも提案、意見が述べられるような体制を作っている。月に一度ミーティングをしている。	管理者は、日常の業務の中や申し送り時、また月1回のユニット会議等で職員から提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。常に職員の声に耳を傾け、なんでも話しやすい環境作りに努めている。人事考課による管理者との面談が年2回行なわれ、意見や提案、悩みなどを話せる機会を設け、業務や職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心は自分自身が持つものだと思う。給与水準は平均だと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人一人の力量は把握しきれないと思う。育てるための研修の確保はなかなか取り組めていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の変化に気を配り、その人の性格を知り、安心して暮らせるよう努めている。環境をととのえ、その人に寄り添い、受け入れ、敬意をもって接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	極力不安を解消して頂けるよう、些細なことでも聞く気持ちを持っている。不安等、話して頂き、適切な声かけができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員一同を管理者で話しあい、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築いている。その人の立場になって考えている。普段の何気ないコミュニケーションから心の安定を保って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている職員は一部だと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所された時はあたたかく迎え、出来る限りの支援に努めている。来所された時は見守り支援をしている。	アセスメントシートやアンケートから生活歴や馴染みの人、場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。友人や知人の訪問時には、居室で落ち着いて過ごせるよう配慮している。家族の協力を得て馴染みの美容院やお墓参りに出掛けたり、自宅に帰って家族と過ごしたりして、馴染みの人や場所の関係が途切れないような支援に取り組んでいる。また入居者の希望で切り花を購入して部屋に飾ったり、新聞や雑誌を見たりして、日常生活の継続を生かした支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人、孤立することのないよう、大きな心を持って対応している。気配り、目配り、支援している。利用者様がたくさん見えるので、とてもありがたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	違う形としても、その希望に近い以降に努めている。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを連絡帳や介護記録に記載して、職員間で話し合い共有してケアにつなげている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	わかる範囲を把握し、時には本人に聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動に気を配り、観察をし、どこまで出来るかできないかの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ミーティングを行い、話し合っている。	ケアプランの短期目標をケース記録に載せ毎日確認し評価している。情報は職員間で共有しながら実践に取り組んでいる。3か月ごとに担当職員が健康面や食事、日常生活などについてアセスメントとモニタリングを行い目標を設定している。6か月ごとに介護計画の見直しを行い、家族も参加して、医師や看護師など関係者の意見や家族アンケートも反映させながら、問題や課題について話し合っ、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かなことでも、報告・連絡・相談をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方のその日にあったサービスをメリハリをつけながらも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方のお小遣いの範囲内で、買い物のできる状態の方は行っている。すべての方が出来るわけではない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の処方を受けている。家族の希望を第一にしている。かかりつけ医の診察、処方を受けている。	家族の希望を優先にしてかかりつけ医の往診を受けたり、月2回の提携医による内科医の往診を受けることができる。週1回訪問看護師により日常の健康管理や適切な受診が受けられるよう支援している。また、希望する方には、歯科衛生士による口腔ケアや歯科医による治療や衛生管理なども受けられる。専門医の受診は家族の協力を得ているが、状況に応じ職員が付き添ったり、緊急時には臨機応変の対応をしている。受診の際は、医師による診療情報提供書等を作成し病状経過や日常の様子などを記載した記録を持参し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が定期的にくる際に、日常の様子、特変を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時に退院サマリー、看護サマリーを受け取っている。入院時は、情報提供書を病院に送っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者とリーダーが話し合いを医師も含め、家族等と細かな所まで話している。	重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し計画の見直しを行っている。医師や訪問看護師と24時間の支援体制を整え、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員会議の中でターミナルケアについての話し合いや職員のメンタルについての研修も行い、職員の気持ちを統一するよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身に付けきれていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行っている。	年2回消防署員の協力を得て防災マニュアルを利用し、火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を昼間や夜間の職員体制で実施している。避難誘導や避難経路の確認や消火活動、救急救命などの指導や助言を受け問題点は職員で話し合い改善に努めている。備蓄品は水や食料、カセットコンロなど職員の物資も含め3日分が用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉かけ、対応に努めている。	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。入社時には、職員ハンドブックで接遇研修を行ったり、施設外研修で学んだ内容を連絡帳に貼って注意を促したり、入居者と慣れ親しんだ関係であるが故に、今、一度見直すことも忘れないようにお互いチェックし合っている。入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮し、人間関係にも細心の注意を払った言葉使いや対応に努め、思いやりと笑顔あふれる暖かい環境作りを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来ない方や場合には、なるべくその人の希望に近いであろう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力努めている。職員側の決まりはそれほどない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在出来る方がおらず	食材は業者から届けられ、管理栄養士の献立を基に入居者の希望を取り入れた献立にアレンジして、季節感のある食事や今まで慣れ親しんできた家庭料理、手づくりおやつなどを提供している。入居者の保有能力に合わせて調理や盛り付け、片付けなどその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。食材をキャンセルしてお刺身やお弁当を取ったり、イベントでカレーライスを作ったりして食への関心が持てるよう工夫している。外食も楽しみひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を確保できる時間帯を作っている。一人一人にあった形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいのできない方はスポンジブラシにて対応し、歯ブラシがうまく使えない方は、仕上げ磨き等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの促し、又は誘導をその人のリズムにあった時間帯に排泄支援している。	個々のチェックリストから排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は可能な限り自力での排泄を目指している。夜間も尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルト、バナナと便通の良い物を提供・工夫をし、強い便秘の症状の方には、服用の形で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は決まっているが、体調に合わせて、日にちをずらしている。	入浴は一人ひとりの体調や状態を考慮して週に2回、個浴や二人介助の機械浴で気持ちよくゆっくり入浴が楽しめるよう配慮している。冬季浴室は暖房機やシャワーを利用し、浴室内を暖めヒートショックに配慮している。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したり、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。入浴後は化粧水などを利用して肌の乾燥に注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢、体調、体力温存、傾眠、体の傾きの見られる場合、臥床の声かけ、介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化は見逃すことのないよう気を配っている。誤薬のないよう細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日必ずではないが、歌を歌ったり、ことわざなど気分転換に散歩等を支援をしている。毎日ではないが、季節の食材を使った食事、デザートをおだししている。しりとり、回想法等のレクも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望を家族に伝えることはしているが、毎日その人の希望によっての外出はできていない。	日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には屋上テラスで日光浴などをして外気に触れる機会を大事にしている。入居者一人ひとりの希望にそって、喫茶店や外食、大型ショッピングセンターなどで買い物などの外出支援をしている。また、初詣や季節の花見に出かけたり、家族の協力を得て東山動物園と一緒に掛けるなど、入居者の希望が叶えられるよう努力している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が管理している。使い道は家族に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今、現在字を書ける人が少ない。電話はいつでも希望があれば、おつなぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは迷うことがないように大きな字で貼り紙がしてある。家庭的な空間作りになっていると思う。	玄関から居間に続く廊下の壁には毎月の行事の写真が掲示され入居者は、写真を見ながら様子を思い出し懐かしんでいる。廊下の暖房や居間の床暖、加湿器などの設備を整え風邪などの予防対策としている。居間は、日当たりがよく明るく風通しの良い生活空間で、壁には季節ごとの飾り物がさりげなく飾られ落ち着いた雰囲気になっている。居間と食堂は兼用で、入居者は、ソファでくつろいだりテレビを見たり、食堂の椅子や廊下の和風ベンチに腰かけておしゃべりしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個人それぞれ慣れ親しんだ家具等をおいている。落ち着くような物・場所には気を遣っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用していたもの、家具等配慮している。	居室入り口には、表札を掲げ自宅玄関の雰囲気になっている。部屋には洗面台が備え付けられ、毎日の歯磨きや、入浴後の顔の手入れなどができるようになっている。また、使い慣れた整理筆筒やお気に入りの椅子、テレビ、などを持ち込んだり、手作り作品や写真などを飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できないこと、わからないことを把握し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう物など使い工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアーサービス株式会社		
事業所名	グループホーム かなれ 2階		
所在地	名古屋市名東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	平成30年12月4日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391500085-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391500085-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成31年1月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様の以前からの元々の性格をくみ取り、その人らしく心穏やかに生活できるように、またできることはゆっくりご本人様のペースで参加して頂き、自立支援を心がけながら、できないことは支援させて頂いております。笑顔で生活できるように支援させて頂いております。室内を清潔に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

2ユニットのモダンな外観の事業所は、開設から16年を経て地域の住宅の中にすっぽりと溶け込んでいる。「その人らしさを大切に」という理念の基に、「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし・笑顔絶えない暮らし」を重点目標に掲げ、個々に寄り添って温もりのある暮らしを目指して日々のケアに努めている。運営推進会議の中で、毎回テーマを決めて勉強会をしながら地域の方とも共有を深めている。地域行事の参加や事業所主催の催し物などはなかなか難しい状況となってきたが、家事活動や買い物、散歩、趣味の生け花など入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。95歳を迎えた方も、職員や周りの入居者に支えられながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。日当たりの良い居間からガラス越しに見える景色や空模様などに目をやりながら、語らったり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を仲間と楽しんでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を誰でも見られる場所に掲示し、共有している。理念はその人らしくて、それぞれのご利用者様に合わせて達成感を持って頂ける様取り組んでいる。常に意識することで、共有につながり、各自にあった介護に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等にて地域の方々と会話をし、ふれあいを持っている。ご近所様へのあいさつを心がけている。お隣の畑をやっている人との会話がある。中学生の体験学習の受け入れをしたり、近所の方がボランティアに来てくださったりしている。運営推進会議を2か月に1回行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のなかで実際の認知症の介護についての話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が取組内容を考え会議を行っている。会議の中で地域ボランティアさんのお話し、ご提案があり、地域の方にボランティアを依頼させて頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き情報を送っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束はしないということを認識しているが、転落、姿がみえなくなる等のご利用者様の身体的なことを考慮し、ご理解を頂き、施錠している。正しく理解していくことも大切だと思っている。安全第一、ご利用者様の自由や意思も尊重しつつ、工夫しながら介護を行うことが大切だと思っている。一人での外出は生命に危険が及ぶ可能性があり、玄関等は施錠をせざるおえないと思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるような言動には注意し、ご利用者様が何に対して訴えたり、考えているかを読み取るように心がけている。利用者様の言動に対し、否定的な対応をしないよう努力している。虐待が見過ごされていないか、職員同士意識し、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と家族が相談して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実調時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見、ご要望があった際にはそれを職員内で周知し、介助等に反映させている。ご利用者様には、常時尋ねている。面会時に意見等、ご家族様にお聞きすることがある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね実行できている。個々の意見は管理者が聞いているが、全ての反映はなかなかできていない。管理者と職員が個人的に話し合う機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	概ね実行できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	契約を結んでいる歯科医より口腔ケアについての研修を受けた。職員一人一人を把握した研修への参加はなかなか難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列の施設への見学にいき、意見を交わし、より質のよいサービスを行えるような機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で入居される際、およびサービスの見直しの際、ご本人様のご要望や生活状況を見て修正を行っている。初期の段階では、傾聴することに重きを置き、ルールの押しつけや無理強いをしないよう心掛けている。業務に追われ、対応が十分にできない時がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのご要望に対して、ケアプランに取り入れ、また他の生活面でも逐一考慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のケアプランを立てる際に、大まかな部分からそれを行うには何が必要かを考えて立てている。マッサージ、外出希望等極力見極められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや体操、散歩を一緒に行い、会話をすることで、関係を良好になるようにしている。常に本人と意向を意識し、一方的な介護を行わない様心がけている。寄り添う介護に努めている。お若い時の話等を伺いながら、教えて頂いたりしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との会話をし、どのようなことを考えておられるか等の現状を把握し、それを共に行えるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所された際には居室には会話をしたり、電話の取次ぎ等には途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを一緒に行い、季節ごとの催しを開く等、ご利用者様同士でも交流が持てるようにしている。認知症がご理解できない利用者様への対応が難しい。スタッフが中に入って支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際はなかなか難しいが、相談されれば、応じている。ご家族のご意向もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、何を求めているかを読み取り、できる限りかなえられるように努めている。日常の行動、言動を観察することで、本人の思いや意向の理解に努めている。ご利用者様の立場になって考え、耳を傾けて、できるだけ添えるよう努めている。困難な時はスタッフ間でミーティングをしている。満足いく生活を提供していくのが望ましいが、全部をうけいれるのは難しい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別にてファイルを作っており、そちらに経歴等をみれるようにしている。以前に働いていた職業から推測し、その人の暮らしや生活環境の理解に努めている。尊重して対応している。ご本人からお聞きしたり、ご家族からお聞きしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録を行い、日々どのような状態、状況であったかがわかるようにしている。申し送りにて職員間で共有している。尊重して対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会議にてご利用者様のことも含めた話し合いをしている。今よりスタッフ同士で話し合う機会を作るとよいと思うがなかなか時間が取れない。モニタリングは3ヶ月に1回行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々評価している。個別記録に記入している。今よりスタッフ同士で話しあう機会を作るとよいと思うがなかなか時間がとれない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科往診、医師往診、マッサージ、買い物、外食等の支援を行っている。今よりスタッフ同士で話しあう機会を作るとよいと思うがなかなか時間がとれない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティアに来て頂いている。喫茶店や神社、花や畑をながめながらの散歩ができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ご家族様と連携し、変化している部分には、適時対応している。利用者様の気になる身体的な状態を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診にて気づいた点をお話し、対応策等の助言をいただいている。細かな点まで伝えて適切な助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その都度対応している。面会に訪れ、病院関係者に確認する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にできることを説明。意思を用紙に記入していただくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、それを参照して対応するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と連携し、訓練を行っている。実際行ったとき、パニックにならず、行動ができるか不安である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉のかけ方には常に注意している。利用者様に対し、尊敬の念を持ち接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや相談にのることで、希望等の聞き取りを行っている。可能な範囲で取り組んでいる。自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望に添い、無理のない生活を送って頂けるように心がけている。一人一人の希望を優先し、可能な限り、希望に添った支援を行っている。一人一人のペースを大切にしている。利用者様の中には、すべての希望に添えなく、不満を持っていらっしゃる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の決定や髪型については、出来る限りでご本人の意思を参考にしている。毛染めなどの支援を行っている。その人のイメージを大切にしている。イベント時の化粧等提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物が何かを聞き、それをメニューに加えたりして楽しんで頂いている。盛り付け、下ごしらえ、片づけ等して頂いている。毎日準備をする余裕がない現状。今後機会を増やしていきたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った量、食事形態等配慮して提供している。体調、体重等を把握し、バランスの良い献立を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士と連携し、適切な口腔ケアを行っている。声かけ、誘導によって、ご本人様に口腔ケアを促している。その人に応じた口腔ケアをしている。自立されている利用者様への支援が不十分である。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が可能な方には、極力トイレにて排泄して頂ける様にしている。トイレ誘導する時間帯を工夫することで、スムーズな排泄を支援している。体力的な面でトイレでの排泄が適さない利用者様が増えたように思う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医との相談の下、ご家族様ともご相談して取り組んでいる。便秘気味のかたには朝食時に牛乳を提供したり、体を動かして頂くことで予防している。風車を吹いて頂くことで腹筋をつけていただけるよう対応している。野菜、繊維質の物を摂って頂ける様努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみながら、入浴順を変更したりしているが、曜日や時間帯は決めてしまっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の表情や調子をみて、無理をせず休んで頂くような声かけを行っている。疲れが見えた時は、臥床して頂くよう、誘導、声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ね理解している。普段の表情や仕草を観察することで、小さな変化も見逃さない様努めている。ご本人様が聞かれた時は丁寧にお伝えしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、掃除を一緒に行っている。可能な限り、余暇活動の時間を作り、本人に合った生活を送れる様活動をしている。気分転換に散歩に行くこともある。十分にできていない部分もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り支援に努めている。できる限り、散歩や喫茶店へ行けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り支援に努めているが、現状ご本人様の手元には現金を持って頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り支援に努めているが、ご利用者様からの希望はあまりないのが現状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけに季節感を取りくみ、季節毎の味わいを感じとれるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	雑誌、新聞を置き、見たいときにみれるようにしてある。自由にされている。長椅子やソファをそれぞれおくことで、自由に休息がとれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前ご使用されていた家具を持ちこんでいただいたりして、心地よくなるよう心掛けている。ご本人様、ご家族様の意向に沿って行っている。ご自宅から三面鏡やご家族様のお写真等ご持参され、その人らしい居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事活動には参加して頂いている。トイレの位置はわかりやすいよう表示している。		